保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
萩原敬三
題字
故内山岩太郎筆

第五十回 神奈川県保育事業大会

今年の保育事業大会は半世紀という節目を迎える大会となりました。「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」の主題のもと、平成二十八年四月二十三日（土）に神奈川県社会福祉会館にて、開催されました。当日は県内各地域より大勢の皆様にご参加を頂き盛大に執り行うことができました。式典におきましては、宮田副理事長の開会のことばに始まり、出席者全員で「花のおさなご」の斉唱と、「児童憲章」の朗読がされました。主催者のあいさつでは萩原理事長より、保育を取り巻く環境や保育の動向についての、話しがありました。

続いて、永年勤続者表彰式が行われ、七十六名の方に賞状と記念品が授与されました。また、昨年に功績のありました叙勲受章者二名、厚生労働大臣表彰受賞者二名、神奈川県保育賞受賞者二名の方々に記念品の贈呈がされました。受賞された皆様には、心よりお祝い申し上げ、今後の更なるご活躍をお祈りいたします。

ご来賓の皆様を代表して、神奈川県県民局次世代育成部長石渡美枝子氏、神奈川県議会県民・スポーツ常任委員会委員長国松誠氏、神奈川県児童福祉審議会委員長松田良昭氏、神奈川県町村会副会長湯河原町長冨田幸宏氏、神奈川県保育士養成施設協会会長横浜女子短期大学学長平野建次氏より、それぞれ祝辞を頂戴し、保育士会の飯塚会長による閉会のことばにより閉会しました。

その後、保育会と保育士会に分かれて定時総会がおこなわれました。当会は役員の改選期にあたり各議題同様に現役員の留任が承認されました。

午後は、保育士の先生方の研究発表が三会場に分かれて行なわれました。

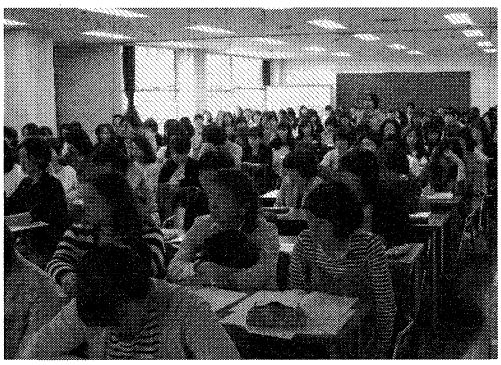
第五十七回関東ブロック保育研究大会の発表テーマになっています二会場の報告をさせていただきます。

第二会場では、「保育の社会化に向けて～保育の営みをいかに社会に発信するか～」に沿って鎌倉市保育士会研究会と厚木市公立保育所保育内容研究会の二つの団体が研究発表を行いました。

鎌倉市保育士会研究会は「保育の社会化に向けて～アンケートから見えてきた地域と保育園のつながり～」と題してアンケート結果を基に考察し、情報誌発行に至った内容の発表が行われました。鎌倉市は「こどもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち、かまくら」の実現を目指し、子ども子育てきらきらプランを策定し、子育て支援に取り組んできました。「安心して子どもを産み育てることが出来る環境とは」ということをテーマとして保護者が地域や社会に何を望んでいるかを掴む為に〇、一、二歳児の保護者対象に「住んでいる地域は子育てしやすいか」「地域の子育て世代同士の交流」「ご近所とのつながり」など五項目のアンケートを実施しました。結果として、市内の地域環境の差異での大きな地域差はみられなかったも

のの、地域に見守られながら子育てをすることを望んでいる保護者は多いが、子どもを遊ばせる場所が少ないことで同じ地域の人とのつながりが出来にくく交流を深めようとしてもその機会が得られないと感じている人が多いことがわかり子育て世代と地域住民が自然と交流しやすい環境作りの為に現在保育園で行っている地域活動を充実させていくという課題が見えてきたということでした。公立園では開放保育、七夕会などの行事への参加お誘い、栄養士や保健師の子育て相談を行うわくわく広場（出張保育）を年四回行っており、子育て世代の親子の交流の場となっています。一方、私立園では子育て世代のみならず様々な世代との交流が持てるバザーや世代間交流、地引網などの地域活動も行われています。地域活動に参加した方達からは、保育園なので安心して参加できるという反面、他の地域の情報も知りたいという要望も出ていたため鎌倉市の保育園で行っている公立及び私立保育園の地域活動の内容をわかりやすくまとめ情報誌を作成、発行し、保育園、行政センター、病院、老人交流センター、支援センター、図書館、学童などに設置するとのことです。

今後はホームページ作成や広報紙への掲載も考えているそうです。アンケート結果から課題を揚げ必要なことに対して活動していったという有意義な発表でした。



次に『保育所における地域とのつながり』『支援活動を広げる取り組みを考える』『地域における専門職としての役割』という題で厚木市の保育内容研究会の発表がありました。

核家族化が進み地域への関わりが薄くなり、育児不安、育児の孤立化などがみられる昨今、地域支援について保育所としてどうあるべきかを考えていった内容でした。まず市の支援事業として、市内各所に赤ちゃんの駅「ベビリア」が設置されており授乳ができミルクのお湯の提供なども行っているという紹介がありました。男性も行きやすい場所になっているそうです。子育てを応援する行政サービスガイド「大きくなぁ～れ」ＱＲコードもあり簡単に子育て支援の情報を知ることができます。また子育て支援センター、児童館それぞれを訪問し前者は〇歳児利用が、後者は一・二歳児の利用者が多く、児童館「おひさまタイム」では保育士からの意見で午前中は乳幼児も使用できるようにし母親同士の交流になっているということでした。更に元湘北短期大学教授の岡本依子先生を講師に「地域における子育て支援」というテーマで講演会も行い学ぶ機会があり、現代事情を踏まえたうえで保護者に子育てについて丁寧に伝えていくこと、予防的な役割として育児不安を薄めていくこと、子どもと関わる経験がない世代に対して子どもとかかわる機会を提供していくことが必要だということです。

保育所は入所している家庭の為の施設と思っている人も多いので保育所の様子や取り組みを知ってもらう為にＳＮＳやフェイスブックで情報発信もしているということでした。園庭開放カードというものを作り、親子で利用するたびにシールを貼りシールがたまると手作りのプレゼントを渡して利用者に喜ばれているそうです。研究を通してより地域と密着し地域性を活かしていく必要があること、今の方法が適切であるかを考えながら時には視点を変えていく必要もある、「親が子育てを楽しむことを支えていく」という本来の目的を大切にしながら、保育所は保護者の求めていることを理解し子どもにとって何が最善であるかを専門的意識を持ち保護者を支えながら伝えていき、地域とのつながりを深めていきたいと結ばれていました。あらためて私たち保育士の専門性を活かし地域に貢献したいと会場の大勢の方も感じた発表内容だったと思います。

第三会場では、関東ブロック保育研究大会の研究テーマ⑧の「公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割」で二題、フリーテーマで一題の研究発表が行われました。

第一番目は、海老名市公立保育園園長会による「公立保

育所の使命と地域社会での役割～各園での取り組みの中で～」と題しての発表がありました。

乳幼児・小・中・高生そして高齢者など多様な世代の方たちとの連携をとりながら世代間の交流を図り、人と人とのつながりを大切にしていきたいとの事で、様々な活動を行っています。との報告がありました。地域子育て支援として、どの園でも園庭開放・給食体験・保育体験などが行われ、地域との交流活動では世代間交流・福祉施設との交流・高齢者ふれあいランチ・芋ほり・かかし祭り・食育講座など、園児との直接のふれ合いを喜んで頂いているそうです。

他園との交流では、園庭でのみかん狩りや民間保育園との相互の保育園を訪問し合い、一緒に遊び楽しんでいるそうです。小学校との交流では、一・二年生、五・六年生との交流でゲームをしたり、見学や発表を見たりと入学することを楽しみにすることが出来ているそうです。

中学・高校とも職業講話や体験学習・ボランティア活動などを通して、保育園・保育士の仕事への興味関心を持てるよう働きかけており、保育園への理解が深まったようです。

上手く映像が流れず残念な場面もありましたが、地域の中で様々な世代からの刺激を受け、子どもの心身の発達にプラスとなるよう、また、近所との助け合いのある保育園・昔ながらのみんなで見守りのある保育園を目指していきたいとの事で発表を終えられました。

二番目の発表は、秦野市立認定こども園保育研究会の「秦野市の認定こども園の現状と今後に向けて」でした。

初めに「市立保育園と市立幼稚園の一体化及び認定こども園の経緯」が報告されました。一体化になっての成果として、〇～五歳児の育ちの連続性を踏まえた、教育・保育が受けられるようになった。多様な関わりが持てるようになった。より豊かな体験・経験が出来る様になった。また保護者にとってもニーズに応じた支援が受けやすくなった。

就労の有無に関わらず在園できる。保護者同士も知り合う機会が増えた。などと園児・保護者共に成果を感じることが出来、保育の質の向上につながったそうです。関係が広がったことによりリズム・体操や絵画指導などの活動も広がったそうです。

また、平成二十七年度の取り組みとして、「行政の担当課の一本化」及び「三・四・五歳児に専任の保育教諭を配置」を行い、利点として、毎日の朝の受け入れが出来る為登園時の把握がしやすい・見通しを持った教育・保育計画が立てやすい・保育準備や幼児会議が行いやすいなどがあげられたが会議の持ち方の工夫や延長保育時の様子の把握の必要性や時差勤務の回数の隔たりなど、改善点もあげられました。

いずれも職員同士のコミニュケーションが大事で何度も話し合いを重ねてきたとのこと。「子ども達のために」との思いで、「子ども園」に取り組んできた先生方のパワーを感じた発表でした。

三番目は、神奈川県保育士会保育内容研究会による「指先の発達やあそびについて～手や指を使って楽しく遊びましょう～」でした。

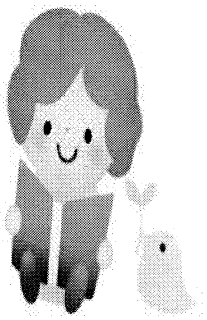
指先を使った遊びが苦手な子が見られ、不器用な子どもが増えている。と感じていたことから研究テーマに選び、理論的な知識を身につけ、調査・実践し、遊びを通しての効果を整理したり、具体的な援助の仕方の研究を進めたそうです。まずは子どもの現状の調査を行い、指先を使った遊びを未満児・以上児と分けました。

未満児は、（にぎる）（つまむ）という点から、マラカスやポンポンをにぎる・ビニールテープをつまむ、はがす・鉄棒をにぎる・洗濯バサミをはさむとる・など実践したところ、子ども達に変化が見られたそうです。

以上児では、新聞紙で裂く・ちぎる・丸めるなどを行い、スズランテープを用いて三つ編みを作る、また、はさみの使い方で検証すると、経験することにより指先を思い通りに動かせるようになることがわかりました。また、箸の調査では持ち方を確認しながら、上手に持てる様に発達支援のきっかけにもなったそうです。

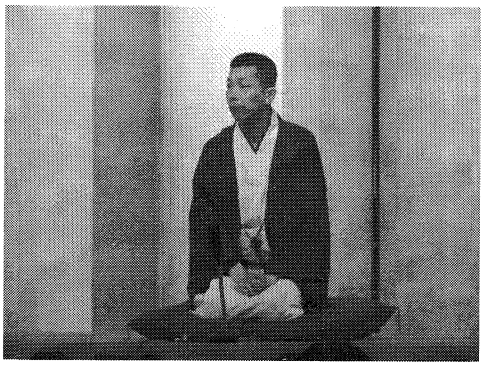
手の発達は、全身の発達と深く関係しているそうで、体をたくさん動かして遊ぶこと。特にハイハイは大事で、指先の発達につながること。また楽しみながら発達を促せる環境作りの大切さを学んだ、とのことで、発表を終えられました。

どのグループも大変参考になり保育の向上に繋がる研究でした。



第57回　関東ブロック
保育研究大会　神奈川大会
開催地　箱根町・小田原市

今年度は、当県神奈川県の箱根町と小田原市にて、去る平成二十八年七月七日（木）から八日（金）まで、湯本富士屋ホテルグランドコンベンションホールをメイン会場に、第五十七回関東ブロック保育研究大会が開催されました。



大会初日のオープニングアトラクションでは、落語家・林家三三氏による落語公演及び、神奈川県副知事中島正信氏による「子どもの健康・未病」についての講演がありました。

開会式では、大会委員長でもある神奈川県保育会萩原理事長の歓迎のことばに始まり、花のおさなご斉唱、保育関係物故者への黙祷、児童憲章の朗読が行われました。

次に、主催者を代表して神奈川県副知事中島正信氏、関東ブロック保育協議会会長奥村尚三氏のあいさつがあり、続いて開催市町村として箱根町長山口昇士氏と、小田原市長加藤憲一氏よりあいさつをいただきました。また来賓の皆様を代表して、全国保育協議会会長万田康氏より祝辞を頂き、来賓・主催者の紹介がされました。最後に神奈川県保育会副理事長宮田丈乃氏による大会決議宣言により開会式が閉会されました。

開会式後は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課加藤正嗣課長補佐による、保育行政の動向と課題についての説明がありました。休憩をはさみ、基調講演では歌うテーマパークチーミーによる、うきうきミニライブで会場は大盛り上がりの様子でした。初日の最後には、次回、第五十八回関東ブロック保育研究大会茨城県立県民文化センター（水戸市）をメイン会場に平成二十九年七月六日（木）～七日（金）に開催される茨城県より、茨城県保育協議会会長清水敏孝氏をはじめ、会員の皆様、また、茨城県のマスコット、ハッスル黄門や水戸市のゆるキャラ、みとちゃんもステージに登場し、茨城県の魅力の紹介、大勢のご参加をお待ちしておりますとあいさつがあり、初日が終了しました。

翌日は各会場に分かれて各都県市の代表による研究発表がなされました。内容については研究報告書をご覧ください。

ここでは第四分科会に参加をした委員の報告をさせていただきます。

第四分科会ではホテル南風荘を会場に、「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」をテーマに四つの発表が行われました。

最初に群馬県榛東村・榛東中央保育園園長飯塚久世先生と、保育士野原美代子先生が、～他の施設や機関との連携をひろげて～のテーマで発表されました。

地域子育て支援センターを併設している同園は、①在園児とその保護者、また地域のすべての子育て家庭への支援、②積極的に地域の子育て家庭とかかわり、関連施設との連携を密にする、の二点に力を入れています。

給食試食会や、運動会、観劇会などの園行事にご招待のほか、地域の公園への出向き保育、子育て講習会の実施、保育園児と共に地域家庭を訪問し、周知・啓発・勧誘活動など、精力的に活動する様子が紹介されました。講習会では、保護者や祖父母、外部からの講師によるお団子づくりや繭玉作り、琴の演奏会、ママヨガ等、園児や保護者だけでなく、地域の方も楽しめる物を保育士も一緒に企画するそうです。また、講師となる人も、自分の得意なことを披露でき、一緒に楽しめてとても良い雰囲気だそうです。

親子相談の事例も報告され、保健センターや療育施設、民生委員、児童相談所などと密

に連携を取ることで、地域の様子や家庭の情報を手に入れやすくなり、保護者に対して適切な支援ができるようになったことが大きな成果だったということで、大変参考になる発表でした。

二番目の発表は、千葉県市川市国府台保育園園長の小室香先生と、明徳本八幡駅保育園園長の丸山敦子先生の～すべての保育園が子育て支援～というテーマでの発表でした。

これまで地域子育て支援活動に試行錯誤しながら取り組んできたが、ここで原点に戻り、保育園の子育て支援を継続する価値を探るために研究を行ってきました。

研究に取り組むにあたり、講師の先生を招き、勉強会を行い、これまでの「子どもの力をつける」という保育が、「子どもの心を育てる」という保育に代わってきているというお話を聞き、子育て支援をもう一度「保育」という視点で考えていくことにし、話し合いをした結果、「子育て支援＝保育の充実にあり」というところにたどり着いたそうです。

そこで、保育園が、保護者や在園以外の親たちのお手本となる保育をしているだろうか、子ども一人ひとりの育ちに見通しを持ち、人として豊かに育てるという意識で子どもに寄り添っているかなど、自分たちの保育を振り返るという作業を行いました。保育園が地域の核となり、「私たちはこんな保育をしていますよ、子どもはこのように育っていき、周りの大人がどのようにかかわっているのか見てください。一緒に子育てしましょう」と伝えていく使命を担っていることを自覚し、働いていてもいなくても、一緒に子育てを考えられる場所、仲間となることが親の不安を解消し、親子の自立をする力をつけるものになると力を込めて話されました。

三番目の発表は、東京都調布市城山保育園上石原、主任保育士の川村恵美先生、調布城山保育園保育士の野本敏明先生が「地域に合わせた子育て支援と保護者とともに取り組む保護者支援～運動会シンボルツリー作り」というテーマで発表されました。

保護者も参加できる、みんなで作る運動会にしたいと、みんなのメッセージを書き込めるシンボルツリー「りんごの木」を作り、りんごの形のメッセージカードに、職員の思い、子どもの意気込み、保護者からの家庭での子どもの様子や子供の言葉、兄弟を迎えにきた卒園児からの励ましのメッセージ等、記入してもらい、沢山のりんごで素敵なシンボルツリーが完成したそうです。

運動会終了後のアンケートでは、保護者から、「意味がないのでは？」「効果が分からない」などの声もあったが、「みんなの気持ちが一つになって、当日までドキドキ、わくわくと期待を膨らますことが出来、良い思い出になった」など、良かったという意見もたくさん聞くことができ、今後は取り組みの意味やねらいをより多くの保護者に理解してもらえるように取り組んでいきたいと報告されました。

最後の発表は、相模原市すこやか保育園園長小林祐子先生と、保育士山中恭子先生、藤本敏子先生の「お母さんの心に寄り添いたい事業～」についての発表でした。

保育園に併設している子育て支援センターの取り組みとして、今回は三つを報告されました。

①「子どももお母さんも笑顔にしたい」地域の公園や公民館などに出向いて、体操やパネルシアター、人形劇などを行う

②「リラックスしてほしい」ベビーマッサージや離乳食試食会を行う

③「地域の親子とずっとつながっていきたい」井戸端保育や交流保育の実施

どのお母さんも孤立してほしくないとの思いから、お母さんを取り巻く環境に目を向け、心の声に耳を傾け、言葉にしないまでも励まし、お母さんに寄り添っていくことで、地域に住む方に笑顔を運んでいきたいとのお話でした。

四つの発表の後、質疑応答が行われ、最後に助言者の神奈川県立保健福祉大学教授の新保幸男先生から、どの発表も、保育園の中での取り組みにとどまらず、積極的に地域へ出て、広い視野にたって活動されているとの総評を頂きました。今後も自己研鑽を積み重ね、専門性を発揮してほしいとのお話でした。

いろいろな取り組みを参考に、たくさんの子育て中の方達と交流をし、一緒に学びあいながら、地域に貢献できる保育を目指していかなければと気持ちを新たにしました。

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

県・市町村児童福祉主幹課長と県保育会員との連絡協議会

平成二十八年八月二十五日ホテル・プラムに於いて、「県・市町村児童福祉主管課長と県保育会委員との連絡協議会」が開催されました。この連絡協議会は、神奈川県次世代育成課、政令市（横浜市・川崎市・相模原市）を除く県各市町村の主管課長と神奈川県保育会役員の参加で行われる県保育会主催の神奈川独自の協議会です。今年度は、行政から神奈川県次世代育成課長をはじめ、九市町の主管課長のご参加を頂き、県保育会役員三十数名の出席で行われました。

第一部では、萩原理事長の挨拶で始まり、基調講演、質疑応答、意見交換会が行われました。

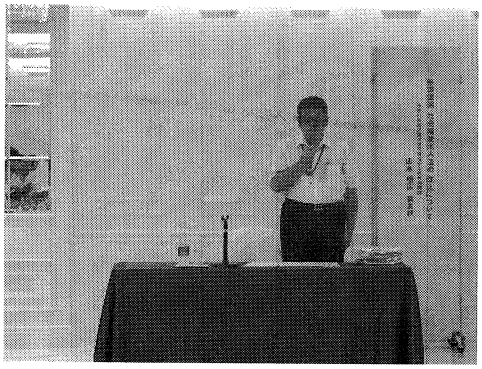
基調講演は、神奈川県県民局次世代育成部次世代育成課の山本明広副主幹より、「社会福祉法人法の改正」についてお話をうかがいました。

まず、この社会福祉法人制度の改革は、社会福祉法人の役割や責務が大きくなっている一方で、内部留保をめぐる問題等、厳しい指摘があったことを背景に実施されたという、改正の経緯について説明がありました。次に改正のポイントとして、①経営組織のガバナンスの強化、②運営の透明性の確保、③適正で公正な財務管理、④地域における公益的な取り組みを実施、⑤行政の指導監督の強化、の五つについて説明があり、国民に対する説明責任を果たし、地域に貢献する法人の在り方を徹底するための改革についての主な内容が示されました。

施行にむけての今後の日程についても説明があり、各施設での今後の対応が急がれるところです。

その後の意見交換会では、県保育会からの四つの設問について、県・市町村の考え方等をお話しいただきました。

一つ目は、認定こども園の移行が進まず、その弊害となっていることはどのようなことが考えられるかというものです。行政からは、園庭や保育室の確保が難しい・必要性が見いだせない・職員や保護者からの理解が得られない・待機の解消につながっていない・制度の先行きが不透明・事務の煩雑化など、対応に苦慮している現状が上がりました。



二つ目は、隠れ待機児童が増えていることどう考えるかというものです。

各市町村で作成している、子ども子育て支援事業計画にもとづき、計画期間である平成三十一年度までをめどに、国や県の動向や、社会情勢の変化状況を見極めながら、待機児童・保留児童の解消につとめていきたいという県からのお話がありました。

三つ目は、教育・保育の環境整備について、かばんやスモック、体操着や、遠足代などの利用者負担は、市町村の承諾と利用者の諾諾が得られれば徴収可能となっているが、この徴収に利用料の値上げ的な考え方がある施設が見受けられるというものです。幼稚園は、国から三分の一の私学助成を受け、利用者からの徴収をしているので、保育園も徴収できないことはないとのお話がありました。また、神奈川県として施設整備の補助金がなくなったことについて、見直しをお願いできないかとの質問には、県からは、県単独の補助は今のところ、大変難しいとの回答がありました。

四つ目は、昨年の連絡協議会アンケートで、今後の課題として事務量の増加という回答が多かったが、一年を経過して実際どうだったかというものです。給付金の複雑化、認定区分や短時間・標準時間の変更の対応、システムの不備、処遇改善加算、保護者や市民への説明等、どの市も大変になっているという回答でした。県からは、施設利用者の契約をインターネットで入力できたらという考えがあるとのお話があり、介護や障がい、社会保障分野では整備がされているので、児童についても、取り入れれば、かなり事務の負担は減るのではないか、法律改正も考えていきたいとの回答でした。

最後に冨田相談役から、「新制度導入から一年半がたち、どの園も、どの市町村も、安定した保育園運営のために工夫・努力を重ねている、これからもこのような会議の場での行政と保育会との意見交換がとても貴重で大切な時間である」とのお話がありました。

第一部終了後、第二部の情報交換・懇親会が行われ、閉会となりました。

保育の日の前夜祭
横浜ベイシェラトン

平成二十八年十二月二日（金）横浜ベイシェラトンホテルにおいて、第三十九回「保育の日前夜祭」が開催されました。当日は、長年にわたり子ども達の育成に多大の貢献をなされ、本年度の栄を受けられた受賞者の皆様をお招きし、県行政、保育関係者が一堂に会してお祝いをしました。また日頃より保育に携わる皆さまの労をねぎらい今後も保育事業のより一層の進展に資することを確認し合いました。

伊澤副理事長の「開会のことば」に続き、萩原理事長より受賞者にお祝いの言葉が述べられました。

☆　神奈川県保育賞

藤沢市（二葉保育園）秋森　ちあき様　横須賀市（長井婦人会保育園）鈴木　百合枝様　鎌倉市（岩瀬保育園）冨田　弘美様　愛川町（高峰保育園）和田　操様

☆　叙勲

横須賀市（長井婦人会保育園）宮田　丈乃様　平塚市（元八幡保育園）平野　昭子様　平塚市（元夕陽ヶ丘保育園）鈴木　明恵様

☆　厚生労働大臣表彰

伊勢原市（比々多保育園）佐藤　千鶴子様　小田原市（上府中保育園）藤森　真弓様

☆　厚生労働大臣感謝状

横須賀市（富士保育園）久場　愛子様　横須賀市（衣笠保育園）大芝　和枝様

茅ヶ崎市（青和保育園）石田　由美子様　小田原市（荻窪保育園）鈴木　弥生様　小田原市（春光保育園）舘田　知佐様　南足柄市（華陵保育園）遠藤　綾子様　小田原市（荻窪保育園）川口　敦子様　茅ヶ崎市（松林保育園）小澤　祐子様

☆　全国保育協議会会長表彰

座間市（相模が丘西保育園）安斉　和恵様　愛川町（田代保育園）山田　早苗様　茅ヶ崎市（西久保保育園）原田　由美様　小田原市（山王保育園）都築　顕道様　綾瀬市（吉岡保育園）笹野　つる子様

以上の皆様方受賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。受賞者の方々からは、緊張感や受賞の喜びが伝わるご挨拶をいただきました。ご臨席いただいた、保育関係者の方々からも心温まるお祝いや励ましの言葉をいただきました。

式典後に行われたアトラクションでは、男性四人の演奏グループ「しろくま楽団」により、軽快なジャズのリズムに合わせ手拍子が起きるなど楽しい時間でした。

懇親会は冨田相談役の乾杯のご発声で和やかに始まりました。温かい雰囲気で参加者の親交を深めることができ、終焉を惜しまれる中、都築顧問のお言葉をもって閉会となりました。

神奈川県保育会定時総会のお知らせ

3月総会　平成29年3月16日（木）16時より

4月総会　平成29年4月22日（土）11時より

場所　神奈川県社会福祉会館

「保育の考え方」研修会

「保育の考え方」　研修会

平成二十八年九月九日にユニコムプラザさがみはらセミナールームにて「保育の考え方」というテーマで山梨大学教授、加藤繁美先生を講師にお招きし研修会が開催されました。

当日は、約百十名という多数の参加となり、関心の高さが伺えました。少し遅れて始まりましたが、その間研修部の方による楽しい手品を見せて頂き，なごやかな雰囲気の中で始まりました。

まず初めに、長時間保育の常態化・乳児保育の一般化・保育サービスの多様化の三点があたり前になり、より利用しやすい保育園（子ども園）へと社会の変化についてお聞きしました。その中で労働時間の削減の大切さ（働き方の規制を考えないとうまくいかない）と本来の子どもたちにどうするのが良いのか考えていくことの必要性を話されました。

次に幼保連携型認定こども園についてのお話があり、要領・指針改定議論の中で　①要領・指針・教育保育要領の一体的改定　②幼小中高の一元的改定　③幼小接続の協調（学びの連続性）　④就学までに育てる三つの力と十の姿　⑤評価の協調　を挙げ、自由な生活と遊びを保証しながら、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を議論し今後につなげていこうと取り組んでいるそうです。

また、学級化社会の教育の貧困さを話され、「子どもの声を聴いていますか」と問われました。子どもの声を起点に、保育は世界を作り出してきた、との事で、「自分の声を聴きとられながら自分を育てる（乳幼児の特別な権利に対する自覚と認識）」…リスニングの教育学としての口頭詩（採集運動）を提言されていました。

「指導→援助へ」「集団→個々へ」と子ども中心になってきた保育の考え方をもっと推し進めて「子どもと作る保育」として、保育者がその日の保育の中で心動かされた事・子どもが話した言葉などを、事実の記録として書き綴った「実践記録」を作成することを提案されました。テキストの中の実践記録を参考にしながら考察・検証と講義を進められました。

子どもたちが自ら理論を作り出し、判断し、疑問を持つ主体であること。そして、知識を構築するプロセスの主人公であることを考えながら、教育実践において何よりも大切にしなければならない行為は、もはや話す事、説明する事、伝える事の中にではなく、聞くことの中に存在しているのである。「子どもの声をきちんと聴いて、それを生かす保育をする」ということでした。今後に向けてたくさんのご教示を頂いた研修会でした。

編集後記

今号は、関東ブロック保育研究大会の作業の関係で発刊が遅れたこと、本当に申し訳ございませんでした。

関東ブロック保育研究大会では、萩原理事長先導のもと、各理事がグループのリーダーになり、企画運営委員会のメンバーを中心に、二年前から準備を進めてきました。

大会初日・二日目とも、晴天に恵まれ、会員園の職員の皆様のご協力をいただいて、「安心・安全」のもと、最大限のおもてなしの心で参加者をお出迎えし、無事終了することができました。

ご協力をいただきました先生方はじめ、保育園で保育をしながら子ども達と留守を守って下さった先生方、関わってくださったすべての方々へ感謝いたします。本当にありがとうございました。

第51回　神奈川県保育事業大会　開催のお知らせ

日時　平成29年4月22日（土）午前10時より

場所　神奈川県社会福祉会館